



学園記念ホール
ステンドグラス



Information From

Nichi-On

—創立 103 周年—

since 1903

The Campus News 9月号

2006. 第 121 号

編集発行 学園事務局

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報

<9~11月の行事予定>

1 年生	
9 / 11 (月) ~ 15 (金)	前期試験
18 (月)	敬老の日 (休校)
19 (火) ~ 25 (月)	追再試験期間
23 (土)	秋分の日 (休校)
27 (水)	セメスター実習開始 (保)
10 / 1 (日)	開校記念日
2 (月)	後期授業開始
9 (月)	体育の日 (休校)
13 (金)	教養講座
11 / 3 (金)	文化の日 (休校)
23 (木)	勤労感謝の日 (休校)

2 年生	
9 / 11 (月) & 19 (火) ~ 22 (金)	前期試験
18 (月)	敬老の日 (休校)
23 (土)	秋分の日 (休校)
25 (月) ~ 29 (金)	追再試験期間
10 / 1 (日)	開校記念日
2 (月)	後期授業開始
9 (月)	体育の日 (休校)
13 (金)	教養講座
11 / 3 (金)	文化の日 (休校)
23 (木)	勤労感謝の日 (休校)

行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等に注意して下さい。

「実習を終えて」

保幼 2 A 北原 舞

実習を終えて、まず感じることは頑張った良かったということです。

2月の実習の時に、日誌の書き方で、もっと保育者の意図を考えて書き分からない所は、反省会などで質問するのではなくその場で聞くよう指導を受けました。その時は、1日の流れを思い出して日誌を書くのが精一杯だったので、保育者の意図や反省会で頂いたことばでさえ日誌に記録することができませんでした。部分実習(半日実習)をさせて頂くにあたり、指導案を提出するよう言われ、作り始めたのですが指導上の注意点を書くのにつまづいてしまいました。以前から保育者が何故、日誌の書き方を指導してくださったのがその時やっと分かりました。

しかし、気付くのが遅れてしまい、部分実習をさせて頂く前日まで直しを繰り返しました。実際、指導するにあたり、子どもに教えてもらったり、メモを見ながら行ってしまい、反省会で悪い評価を受けてしまいました。保育者からイメージトレーニングは大切だから

子どもの色々な活動を予想し、それに合った援助ができるようにと、指導を受けていました。しかし、十分な時間が取れず納得のいく活動ができませんでした。次の責任実習では、計画だてて取り組もうと考えていました。実習の前に、どんな活動をしようか・私自身何に重点を置いて学ぼうか・私が指導するにあたり、子どもに何を学んで欲しいか納得するまで考えました。



実習初日に指導案や事前準備したものを見て頂き保育者の意見を取り入れさせて頂きイメージトレーニングをたくさんした結果、自信を持って子どもの前に立つことができました。事前準備を頑張った結果、良い評価をもらうことができました。

1年生のみなさんも実習が始まる前に事前準備を頑張ればその分有意義な実習を送ることができますよ!そのためにはまず、学校生活を有意義に過ごしてください。



芸術セラピーの授業で過ごした4日間はとても充実した日々でした。

最初は自分と同じくらいの大きさの紙に絵を描くということは初めての経験だったので戸惑いと難しさを感じましたが、段々と自由に自分らしく描いていく事に、自分自身でもいろいろと感じる事が出てきて、出来上がった絵について話したり、人からの疑問を聞いたりした時は、改めて自分自身を見つめなおす事ができました。

これまで芸術セラピーと言うものは、自分の作ったものに対してセラピストにいろいろ分析をしてもらって治療されていくものだと

思っていたのですが、今回の授業で身を通じて自分で自分自身を見つめるものなんだと学ぶ事ができました。

また、この授業のTAを務めたことで、スーザン先生とあまり言葉が通じないながらもたくさん関わりあい、話ができただけでもとても大きな経験となりました。私と違う視点で色々なものを見ているということはとても勉強になったし、またプロとして芸術セラピーを行っている姿はとても新鮮なものがありました。長いようであつという間に過ぎてしまったので、この授業に名残惜しさを感じてしまいましたが、この4日間で学んだ事をこの先も生かしていけるようにしっかり自分のなかに刻み込ませておきたいと思います。

教養講座 『素晴らしい紙芝居の世界』を体験して 保幼1-3 結城 智司

保育園や幼稚園で子ども達が大好きなもの。大好きなものはたくさんあると思いますが、「年齢など関係なく皆がひとつになれるもの」と考えた時、私は真っ先に絵本や紙芝居を思い浮かべます。子ども達にとっても保育者にとっても、身近で親しみのある紙芝居の世界を、童心社の社長でもある酒井先生からお聞きすることができました。

紙芝居には「参加型」と「物語完結型」があるということです。酒井先生はこの二つの作品例として「参加型」では、『おおきく おおきく おおきくなあれ』を、「物語完結型」では、『あひるの王様』と『食べられたやまんば』を熱演してくださいました。

「参加型」の特徴は、聞き手に語りかけることですぐに紙芝居の世界に引き込むことができ、そして何よりも、読み手と聞き手との



コミュニケーションによって両者のつながりが大きくなっていくことだそうです。一方「物語完結型」は読み手の技術が要求されるのが特徴とのことでした。紙芝居の世界のキャラクターの感情、場面によって強弱をつけるなど、いかに聞き手を引き付けるように演じられるかがポイントになるそうです。

普段何気なく読み親しんでいた紙芝居も、酒井先生の実演と解説によってとても奥の深いものなのだと考えさせられました。そして気がつけば、私も先生の読む紙芝居の世界に引き込まれていました。同じ紙芝居でも、読み方によってはこれほど聞き手を引き付けられるものなのだと改めて体験することができました。今回の教養講座で体験できた「紙芝居の世界」を、私も子ども達に伝えられるようにしたいと思います。

